

次元超突破 体験

UFO/ET

との
スーパーコンタクト

スターゲートから降りそそぐNewRealityの光

竹本良
高野誠鮮
寺井広樹

どこから来ている?! なんで来ている?!
あなたの現実には5次元存在がリアルとなったとき
はじめてアセンションが始まる——



ヒカルランド

第1章 宇宙人とコミュニケーションを
する時代はすでに始まっている！

竹本 良

- 9 私がアダムスキー研究から距離を置いたわけ
- 13 宇宙人・UFOとの遭遇体験のバターン分析
- 16 「地球外軍産複合体」が世界の死の商人たちをコントロールしている！
- 20 ジミー・カーター大統領はひそかに宇宙人研究をしていた
- 22 我々の宇宙には、57種の宇宙人がいる！
- 28 宇宙人解剖フィルムは本当かウソか
- 30 町田に宇宙人「スターピープル・スーちゃん」出現！
- 36 今、宇宙人と平和に暮らす第2コペルニクス革命へ
- 39 **column** 第二コペルニクス革命…科学と哲学における大潮流の転換点

第2章 人類は何千年にもわたって遺伝子操作され続けている!?

高野誠鮮

- 43 自衛隊幕僚幹部はUFOの存在を知っている!
- 44 本当の情報はめったにない
- 46 公文書に記されているUFOの存在
- 48 アメリカの宇宙飛行士たちは規制でUFOを口外できない
- 51 日本の護衛艦が遭遇したUFO、そして記憶は消された
- 54 副艦長が開発した冷却装置の超技術——宇宙人が教えた!?
- 58 人体のエネルギーで作動し、異物反応を起こさないインプラントの怪
- 61 太陽系外の隕石^{いんせき}でできた金属!?
- 64 エイリアンに遭遇する特定の周期がある
- 66 人類は何千年にもわたって遺伝子操作され続けている!?
- 70 魂は両親を選んでこの地上に生まれてくる
- 74 天国、地獄は人間がつくってしまったもの、本質の喜びを知ろう
- 77 質疑応答——レプティリアンよりも現実の軍産複合体のほうが恐ろしい!

第3章 日本人は八百万^{やおよろず}の宇宙人と仲良くしていける！

竹本 良

- 85 アタカマ・ヒューマノイドは偽物とされてしまったが……
- 89 町田に出現した「スタービープル・スーちゃん」の謎
- 94 アメリカの情報将校やカナダの国防大臣が暴露したUFO情報
- 97 UFO研究の第一人者森脇十九男さんが教えてくれたこと
- 101 ナチスのUFO研究を継続していたアメリカのSPP
- 103 月周回衛星「かぐや」は月面上の真実を全て撮影している!?
- 106 UFOと仲よくしていける文化が日本にはある

第4章 もう地球人同士で戦争している場合ではない！ 各国がひた隠すUFO問題

高野誠鮮

- 111 エイリアンがいるのなら、地球内で戦争をやっている場合じゃない！
- 112 UFOを公式的に認めた要人はなぜか不審な死を遂げる！
- 116 地球外文明は40万個ある！ 歪め^{ゆが}られているドレイク方程式
- 121 UFOを否定する社会心理操作にはウォルト・ディズニーも関与していた！

- 123 ロズウェル事件の証人、「上司の命令で偽の発表」
- 127 アポロ17号船長が自宅に所有していたUFOの存在を認める暗号表
- 130 V2型ロケット開発者は円盤搭乗者を「ウラニデス」と呼んでいた
- 136 FAO(国連食糧農業機関)も遺伝子組み換えのモンサント社を非難している
- 138 今、地球上の食材は全て遺伝子組み換えになっている!?
- 141 敗戦国日本にはまともな情報は入ってこない
- 143 「嘉手納^{かてな}基地から原子爆弾を三沢基地へ輸送中、UFOと遭遇」
- 145 「自分たちの星には貨幣がない。地球の貨幣経済はおかしい」
- 150 フランス「アメリカ1国にUFOテクノロジーを独占させない!」
- 153 究極の理想、全ての答えは人体にある!
- 157 アメリカの宇宙飛行士が語る軍事テクノロジーの最先端
- 161 「農業資材は邪悪!」気化した肥料がオゾン層を壊している
- 164 アメリカ「UFO問題は日本人を見習え!」
- 167 歴史はらせん運動、今、日本が世界に果たす役目がある

第5章 UFO・宇宙人の核心とタブーに迫る —— 高野誠鮮&竹本良／司会…寺井広樹

- 175 この宇宙は虚数が重なり合っていてきている
- 181 ラエリアン・ムーブメント、マイヤー事件は本物か偽物か
- 187 意識と物質とエネルギーは等価であると仏教は説いている
- 191 ディスクロージャー・プロジェクトの原案は高野さんからパクった!?
- 193 スティーブン・グリア博士はなぜ殺されずにいるのか
- 197 ディスクロージャー・プロジェクトは仕組まれたもの!?
- 199 物事に偶然はない、全て仕組まれている!?
- 204 ペンタゴンを動かす連中はマスコミも監視中
- 208 体験に真実を見いだすか、文献に証拠を求めるか

第6章 災害・事故を知らせてくれるUFOとそのコンタクト方法

—— 寺井広樹

- 215 UFOはいつも人類を見守っている!?
- 219 宇宙人とコンタクトするコツがある

第1章

宇宙人と
コミュニケーションを
する時代はすでに
始まっている！

竹本 良

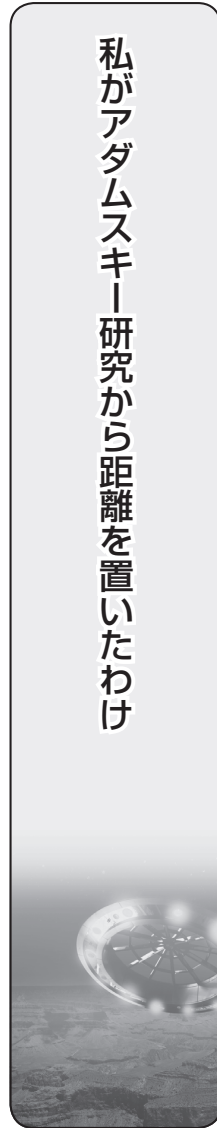
本章は2018年1月21日にヒカルランドパークで行われたセミナーを元に加筆したものです。

私がアダムスキー研究から距離を置いたわけ

竹本良 皆さん、おはようございます。竹本良でございます。

今のマスコミの人たち、例えば矢追純一先生とか、蕪澤潤一郎さん、それから亡くなりましたがUFO党（のち、「開星論」のUFO党）の党首であった森脇十九男さんという方も、皆さんどちらかというとアダムスキー派あるいはCBA（宇宙友好協会、1957年航空ジャーナリストの松村雄亮が設立）の残党なんですね。天宮清さんもそうです。

ですから、残党の人たちがいろいろとUFOの情報を皆さんに啓蒙しているということが結構あります。例えば矢追先生はCBAではありませんが、ジョージ・アダムスキーの著作をおおはしきよせん大橋巨泉さんに読ませたり、マスコミの人たちに読んでもらったり、



そういったこともあって、日本のマスコミはどちらかというとアダムスキーから始まったと言ってもおかしくないと思います。

たかのしょうせん
高野誠鮮さんと僕は若い頃に、残党であります森脇十九男さんのところで一緒に勉強していたんです。ですから、アダムスキーが最初の突破口というか、初めの砦とりで、関門みたいな感じがあると思います。高野さんと僕は、どちらかというともうちょっとサイエンティフィックにいこうじゃないか。サイエンスと余り外れたようなことはやめようじゃないかというふうに考えています。

森脇さんは政治が好きだったんです。彼は早稲田の政治学科なんです。僕は経済だったんですけど、彼は今で言うところのエクソポリティクス（宇宙政治学）を紹介しているというところで、森脇さんと僕は、国連の情報とか、アメリカの1966年、68年のUFO公聴会とか、英国の議事録とか、いろいろなものを調べて紹介するようになりました。

僕がアダムスキーとちよつと離れるようになるのはどういふことかというのと、アダムスキーの最後の講演録というのがあります、そこで彼は訴えるわけです。地球人

は意識を高めて、宇宙意識になって、地球外に出るべく宇宙開発をしなくちゃいけない。その理由は何かというのと、「太陽の磁場が逆転したから」「太陽の磁場が逆転するから」と、そういうようなことを彼は言うんです。

僕は早速、太陽の磁場はどういうふうに逆転するのかを調べました。アメリカのヘール天文台に、本当に太陽の磁場が逆転しているのか問い合わせをしました。そうしたら、すぐに論文とともに返事が返ってきました。ハワード博士という方が、1957年も69年も、太陽の磁場は逆転していると教えてくれました。また、それ以降も逆転する可能性がある。大体11年半周期で太陽の磁場はN極とS極が逆転する。今の科学者にはほとんど当たり前になっていますが、その当時はまだギリギリの研究の段階だったので、ちょっと怪しい状況もあったんですね。それをアダムスキーが宇宙人から聞いたということで流したわけです。僕はそれを聞いて、その後、ずっと調べていて、太陽の磁場逆転が理由で地球外に出なくちゃいけないというのはおかしいということ、アダムスキーの理論はおかしいということがわかったわけです。

森脇さんと国連の資料とか、アメリカの1966年、68年の資料とかを調べて紹介

しているうちに、いろいろなことがわかってきました。つまり、1966年のアメリカの議事録に何十種類ものUFOの形状が載っています。それだけ調べているということです。調べてみますと、プロジェクトブルーブックという有名なものがあります。こういったUFOの探索計画、サイン計画、グラッジ計画とかがあるんです。ですから1950年代、60年代、アメリカはそういったUFOの探索計画をずっとやっていたわけです。

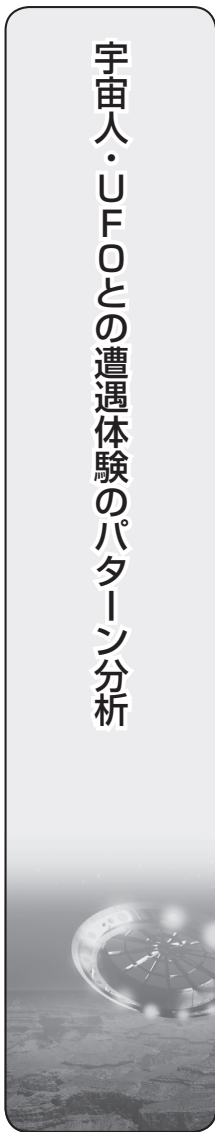
その結論としては、アレン・ハインツ博士という人を中心に立てて、1969年に答えを出しています。UFOというのは皆さんが目撃された中の90%ぐらいは未知のものではなくて、既知のものの間違いである。ただし、10%ぐらいはよくわからないものがあると結論づけています。

宇宙人・UFOとの遭遇体験のパターン分析

アレン・ハイネックは、第1種接近遭遇、第2種接近遭遇、第3種接近遭遇という分類を紹介しています。

簡単に言えば、第1種接近遭遇というのは、空飛ぶ円盤を至近距離から目撃することです。至近距離というのはどれぐらいの距離なのか。とりあえずUFOを見たよと
いうことを、第1種接近遭遇と考えたほうがいいのか、それとも非常に近いところと
考えたほうがいいのか。その辺はありますが、一応、UFOを見た。円盤を見たとい
うことですね。

第2種接近遭遇は、空飛ぶ円盤が周囲に何らかの影響を与えること。これはいろいろ
なことがあります。EM効果といったりします。電磁効果です。例えば、機械が



故障したり、電気が消えたり、いろいろな電磁的な効果をEM効果といいますが、そういった効果がある。それから、放射線障害とか、やけどをしたりします。やけどのケースはオーストラリアであって、それでアメリカの消防マニュアル（FEMA消防マニュアル）には、「円盤に遭っても近づかないこと！」という指示があります。それは円盤の近くに寄ると、放射線障害になる可能性がある。もう1つは、やけどすることがあるので気をつけましょうということです。

第3種接近遭遇は、空飛ぶ円盤の搭乗員と接触すること。

この3つがとりあえずアレン・ハイネックさんの分類です。

ところが、グレゴリー・サリバンさんの研究によれば、第5種の接近遭遇というところまで来ています。

第4種は、空飛ぶ円盤の搭乗員にアブダクション（誘拐）されたり、インプラントを埋め込まれたりすること、また、空飛ぶ円盤の搭乗員を捕獲、拘束することとなっています。インプラントというのは、体の中にコンピュータチップみたいなものを埋められることです。リア博士という人が調べたところによりますと、かなり精密な

る器械を埋め込むようです。非常にマイクロなものを埋め込むこともあります。

第5種は、人類と宇宙人が直接対話する、それから通信すること。こういうレベルになっていきます。

この後を簡単にお話しすると、第6種接近遭遇は、接近遭遇の結果、死傷者が発生する。キャトル（畜牛）・ミューテイレーションじゃなくて、人間ミューテイレーションという話もあるんですね。何例もあります。

第7種の接近遭遇は、人と宇宙人との混血種が生まれる。これはハイブリッドとよく言われますね。例えばイエス・キリストで言えば、聖母マリア様が処女懐妊されてイエスが生まれる。これは昔では1つの神話になるわけですが、今で言うと、ひよつとするとアブダクションされて、宇宙人との混血をつくられたのかもしれない。例えば、東方の三博士の話とか、星が導くわけじゃないんですよ。そうなるとUFOがこつちのほうにイエスが生まれたたと示した可能性もあるだろう。そういうこともあるとすると、ハイブリッドの問題は結構目撃者がいて、人間と宇宙人とのハイブリッドがどうも大量生産みたいな形になっているという話もあります。

第8種は、宇宙人による侵略です。ある意味で宇宙戦争みたいな世界ですね。宇宙戦争の内容としては、地球の細菌、微生物に宇宙人が負けてしまおうとか、それから映画「インデペンデンス・デイ」では、地球のコンピューターウイルスが彼らを直撃してやっつけるというような話になっています。

第9種は、人類と宇宙人とが公的に交流すること。公的交流ということなんですが、これがグリーダ条約と言われているもので、ある意味では、アイゼンハワー米大統領が、グレイあるいはトルホワイトとコミユニケーションしたと言われている話です。

「地球外軍産複合体」が世界の死の商人たちをコントロールしている!

国際政治が専門のマイケル・サラ博士が『ありえない世界』（ヒカルランド刊）という本を書かれています。この中に非常に不思議な言葉があります。「地球外軍産

複合体」という言葉です。実は、アイゼンハワー大統領（第42代、43代…一九五三～六一）が一番恐れたのは軍産複合体だったんです。アイゼンハワーは最後の演説で、はっきり言って国家を牛耳っているのは大統領でも何でもなくて、軍産複合体だと言いました。

簡単に言うと、我々は普通、アメリカとかロシアとか中国とか、そういうふうには考えますが、そうではなくて、実は国家以上に、例えば国際商社みたいなものと考えたほうがいいと思います。そういうところが、例えば、あつちにミサイルを売って、こつちにロケットを売って、そつちに何とかと、要するに死の商人ですね。死の商人が発展した形態が軍産複合体なんですが、その軍産複合体をグレイとかレプティリアとかドラコニアン（アルファ・ドラコニス）といったグループが協力している可能性があつて、そのことをマイケル・サラ博士は「地球外軍産複合体」といっています。そういう交流、先ほど言いましたグリーダ条約というのは、ウイキペディアを調べると載っていると思います。グレイと契約をしたというのと、トールホワイトと契約したというのと、2つがあります。トールホワイトというのは、グレゴリー・サリ

地球外軍産複合体と協力関係にあるエイリアンのグループ

ET グループ	主要な活動	結果として生じたグローバルな問題
ショート・グレイ (小網座 (レチクル座) ゼータ星&オリオン座)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の誘拐 ・遺伝子実験 ・洗脳 (マインドコントロール) ・移植、クローニング、人間&グレイのハイブリッドを通しての人間監視 ・銀河奴隷取引 	<ul style="list-style-type: none"> ・トラウマを負った被誘拐者 ・遺伝子を変更された人間 ・移植を通して監視されている人間 ・洗脳された「被誘拐者」 ・人権侵害
トール・グレイ (トール・ホワイト) (オリオン座)	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子実験 ・人間&グレイのハイブリッドの創造 ・マインドコントロール ・「影の政府」との外交協定 ・銀河奴隷取引 	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子を変更された人間 ・人権侵害 ・洗脳された「被誘拐者」 ・政治家の名誉棄損 ・軍の諜報部門への潜入
カマキリ	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子実験の監督 ・グレイに反抗する人間を統制する手助け ・マインドコントロール ・「影の政府」との外交協定 ・銀河奴隷取引 	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子を変更された人間 ・移植を通して監視されている人間 ・洗脳された「被誘拐者」 ・政治家の名誉棄損 ・人権侵害
地球レプティリアン 地下生命体 (地球)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権侵害、エリート層の操作、信仰体系への干渉、銀河奴隷取引を含む軍諜報部門との協定 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権侵害 ・遺伝子操作 ・エリート層の腐敗と支配 ・宗教教理の分裂 ・優生学

<p>ドラコニアン・レプティリアン (アルファ・ドラコニス)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エリート層、秘密結社、金融システムの支配 ・欠乏、争い、不安の空気をかもすことによる軍部支配 ・グレイ、地球レプティリアン、銀河奴隷取引の操作 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の富の格差 ・エリート層と制度の腐敗 ・民族・宗教間の暴力 ・人権侵害 ・暴力やテロの増殖 ・薬物取引と組織犯罪
<p>シリウス星人 (シリウス B)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異星人による威嚇のための軍事協力を促進するテクノロジー交換プログラムへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・秘密兵器の研究 ・新型兵器の使用 ・タイムトラベル実験中の市民への嫌がらせ
<p>アヌンナキ (ニビル星)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エリート層、システムや制度、人間の意識操作を通じての長期にわたる人間進化支配 ・地球の支配をめぐるドラコニアンとの争い 	<ul style="list-style-type: none"> ・エリート層の操作 ・宗教的原理主義 ・家父長的地球文化 ・暴力の増殖
<p>アルデバラン星人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルル協会その他の秘密結社と共に優生学、民族純化、高度なテクノロジーを進めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・優生学 ・民族浄化 ・エリート層の操作 ・カースト制度

© Copyright, Michael E. Salla, PhD, 2015

マイケル・E・サラ著『ありえない世界』（ヒカルランド刊）より

バン先生みたいに背の高いカッコいい人。とても背が高く、金髪で、いわゆるノルディックと言われるグループです。そのグループとも契約をしていると言われていま

ジミー・カーター大統領はひそかに宇宙人研究をしていた

僕が森脇十九男さんと一番最初に書いた本『やはりE.T.はいた!』は、1983年に大陸書房というところから出ています。内容は、基本的には初期のUFO研究です。アダムスキーから脱して、むしろ政治学でUFOの情報が流されているということで、僕は森脇さんと一緒にジミー・カーター大統領(第39代…一九七七〜八一)に会いに行ったことがあるんです。一九七九年六月に、東京サミットの際に、彼が下田に来たときに、ホワイトハウスのスタッフに会って、UFOの情報を早く流してく

ださいという書簡を渡しました。ジミー・カーターは、自分がUFOを見たものから、大統領になったらUFOの情報公開をするよとずっと言っていたので僕は期待してずっと待っていたんです。とりあえず下田に来たので、「森脇さん、一緒に行こう」ということで行きました。直接会うことはできませんでしたが、ホワイトハウスの人たちに、UFOの情報公開をするようにという書簡を渡してきました。

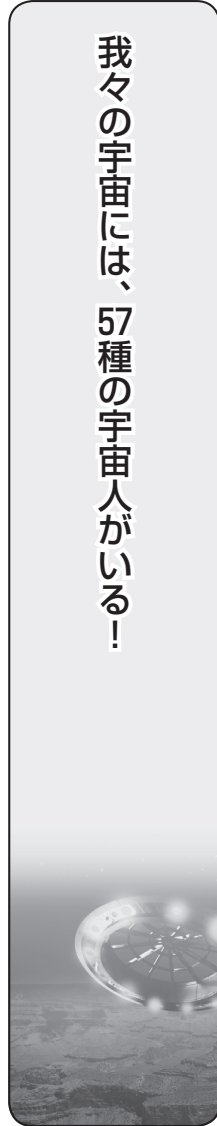
ホワイトハウスの人たちは、何しに来たんだと言っていました。僕は、そのときユーフォー、ユーフォー(UFO)」と言っちゃったんです。ユーフォーだと全然伝わらない。それでユー・エフ・オウと言ったら通じました。「フライングソーサーの情報は何だ？」と言うから、情報を公開してほしいんだとお伝えしました。

ジミー・カーターは、大統領になってから何もやってないわけではなくて、実は陰でSRI(スタンフォード・リサーチ・インスティテュート)というシンクタンクに、もし宇宙人が来たら、地球人はどうやって対処しなくちゃいけないかということを研究させていたんです。その白羽の矢が立ったのがマイケル・サラ博士で、『ありえない世界』を書いた本人なんです。

我々の宇宙には、57種の宇宙人がいる！

マイケル・サラ博士とも僕はお会いしています。大変頭のいい方で、研究をかなりやっています。アメリカの情報から世界の情報、いろいろやっていて、いわゆる軍産複合体の地球人とかかわっている宇宙人と、そうではなくて平和裏に地球に接触しようとしているグループと、2つに分けています。最初のほうは地球外軍産複合体という表現をしています。そうではないもう1つの表現として、それ以外の宇宙人の方々。ですから宇宙人といってもいろいろいるわけです。

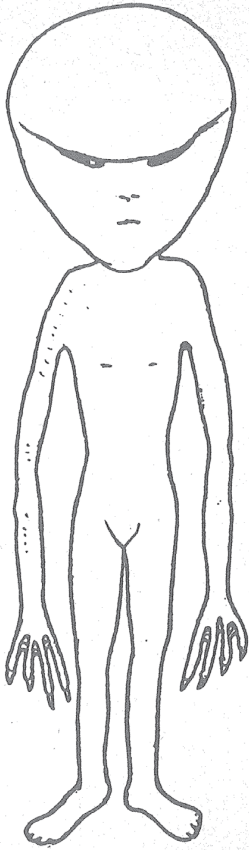
クリフォード・ストーンという軍曹は、57種いるだろうと言っています。57種の宇宙人の中には、いい宇宙人もいるし、悪い宇宙人もいます。そういった段階なんですけれども、我々の宇宙というのは非常に広いわけです。



我々の銀河には1000億の太陽があるとよく言われています。その太陽には、やはり太陽系みたいなものがある。その2分の1には、火星と地球ぐらいのハビタブルゾーン（宇宙における、生命の生存に適した領域）と言われるものがある。1000億の太陽、銀河の中には、半分に1個か2個、地球や火星みたいなハビタブルゾーンがあるとされているので、ある意味でそれは500億から1000億ぐらいあるということになるわけです。

そうすると、銀河はどのぐらいあるのか。僕はちょっと勘違いしていて、1000億個ぐらい銀河があると思っていたのですが、最近の天文学者の話ですと、どうも1兆個ある。そうするとこの宇宙には、1兆×500億個〜1000億個の地球型の惑星があるということになります。そうしたら、たくさんいろいろな種類がいてもおかしくないというのはこれでわかるとおりであります。

『やはりE.T.はいた！』は、1983年に書いたのですが、そこで紹介したのは、一番最初のグレイです。いわゆるリトルグレイと言われているものです。その当時はこんな凶しかなかったんです。これはレナード・ストリングフィールドの1978年



1978年のレポートに記されたグレイ。『やはり E.T. はいた!』(大陸書房) より

の「第3種の回収」という論文から紹介しているんですが、こんな感じの宇宙人ですね。イメージ的にはグレイなんですが、異形なる形、地球人とは違う形のグレイ、こういうものが来ており、回収されているという話です。

レナード・ストリングフィールドは情報提供者を匿名でずっとやっていたものですが、その信憑性しんぴやうせいを疑われていたんですが、僕は彼が亡くなった後、ご自宅に伺って、奥さまとお話して、段ボールに実名の書類がたくさんあると聞きました。ただ、その実名を紹介することはできるのですかと聞いたら、家族会議を開いて、レナード・ストリングフィールドさんは匿名という約束のもとに情報を出していたので、実名を紹介するわけにいかないと言われました。その中には先ほどのグレイに会った人たち、グレイと一緒に研究した人たちの紹介がたくさん出ています。

レナード・ストリングフィールドさんがなぜそういうことができたかという点、もともと空軍のパイロットだったので、第2次世界大戦中、日本に來たりしていたときにUFOに遭遇した。そのときはフーファイター（幽霊爆撃機）と言われていたのですが、それからUFOの研究を始めまして、オハイオ州のライトパターン空軍基地

の近くに住んでいたものですから、その基地のグループとやりとりをして、暗号名ま
でいただいて、UFOを見たときには報告するという役割をしていたんです。ライト
パターソン空軍基地でUFOの講義をやったりもしていました。

ということ、まずグレイから紹介していきたいと思います。

最初はさっきの絵ぐらいなもので、リアリティーが余りなかったんですが、最近ほ
ここういう動画が出てきました。これはスキニーボブ(図1)と言われるもので、本当
かどうか怪しいと言われています。僕はまばたきするのを初めて見ました。ただ、よ
く見ると鼻があるんです。先ほどのリトルグレイとちよつと違うのは鼻が大きいとい
うことで、これはラージノーズグレイであろうと僕は思うんです。ということは、身
長は結構大きいであろう。150センチぐらいあり得るであろう。

ここに年月が書いてありますが、これは全部無視していいです。とりあえずこれは
KGBビデオと言われていますが、実際はそうじゃないと思います。

では、次に行きましょう。

数年前から出てきたのが、こういったグレイではないけれどグレイに似ている、変



図1：「スキニーポップ」と呼ばれるグレイ型宇宙人。ラージノーズグレイと思われる。



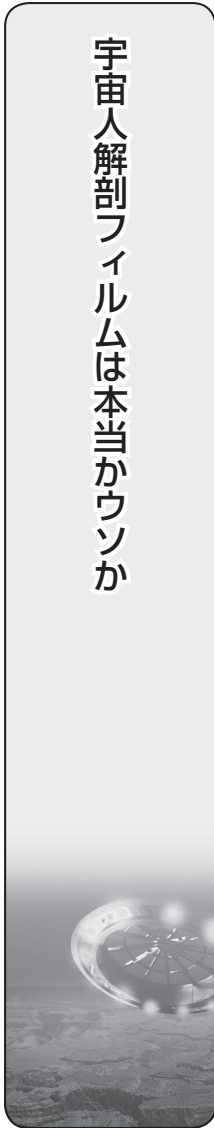
図2：身体検査を受けている宇宙人

図3：ニューメキシコ州で回収された宇宙人

形みたいなものです。クリフォード・ストーンが言っていた57種の宇宙人のうち、5種はともにもグレイタイプで変種であるというようなことが言われているので、多分その一種、変種のうちだと思えます。これは身体検査というか、目の検査をしている(図2)と言われています。恐らく拉致らちされた宇宙人のうち、それを検査するということでも出されたんだと思います。

これはニューメキシコ州で回収された宇宙人(図3)と言われていますが、地球人にちよつと似ています。僕は、これはハイブリッドだと思っています。

宇宙人解剖フィルムは本当かウソか



昔は絵しかなかったものが、最近はこういった形で少しずつ出てきています。ただ、全部が本当かという点、怪しいところがかなりありますので、眉まゆに唾つばをつけて見てい

たほうがいいです。というのは、昔はやった宇宙人解剖フィルムというのがありまして、我々UFO研究者はそれにすっかりだまされました。一回だまされたので、もう二度とだまされないぞということで、例えばこういう画像が出てきても、これは本当だよとは言わないで、一応スルーしておく。こんな話もあるよという形にしておいて、若干ごまかしているんですね。

宇宙人解剖フィルムには、実は高野誠鮮さんが絡んでいます。小川謙治さんというテレビプロデューサーが高野さんと組んで、フジテレビで宇宙人解剖フィルムを流しました。その半年前に、実はアメリカやヨーロッパではウソ説がもう流れていました。徹底的にウソ説が流れているんですが、どうもテレビ局との売買とかいろいろありまして、2〜3000万円ぐらいで買ってしまったものですから、ウソとは言えないで、流さざるを得なくなったというのが本当だと思います。

僕は半年前からウソだということを知っていたので、宇宙人解剖フィルムに関しては「エー、今ごろ出すの？ 本当に今出しちゃっていいのかしら」と思ったんですね。高野君とか小川さんに聞いたら、要するに契約が成立しちゃったのでということでは

た。レイ・サンティリというちよつといかがわしいブローカーみたいな人で、そういった情報を世界各国と売買して、お金儲けした人なんです。

実際に出してみたところ、その後、スポーツ新聞とかいろいろところでスクープされて、あれは「チャリーとチョコレート工場」だったか、そのメーカーアップーティストが関係しているつくりものであると。ただ、高野さんの弁明としては、あれは実際にあるものの複製であって、本物はある。だけど流せないんだという話でした。

町田に宇宙人「スターピープル・スーちゃん」出現！



そんなわけで、これまでは海外の話で、本当かな、ウソかなという感じで、僕自身もクエスチョンでずっと来たんですが、2017年の11月19日の朝の2時に、町田に